

1月10日（土）13：00～14：30

【講義】学校教育における体験活動

～子どもの「心の豊かさや生きる力」を創造するために～ 濱田 道雄

「学校教育における体験活動」は、講座内容の基本柱を戦後日本社会が歩んできた出来事（経済・社会事象面）と学習指導要領（教育施策面）の変遷とを対比しながら、子どもたちにとって自然体験活動が必要な理由を分析し、学校教育において体験活動が必要であることを位置付けた。

講義内容の要点

「学校教育における体験活動」

1. 今日の本社会の動き（S22年～H26年間の経済・社会事象・教育施策年表）
不安定な雇用、リスラ者の増加、都市集中型・夜型社会、情報化社会・・・
2. 子どもたちの現状と課題
大人も子どももあまり人と関わらなくても生活できる時代
自己肯定感を高める取り組みを
3. 学習指導要領における体験活動の位置づけ
4. 学校教育における体験活動の意義
豊かな人間性や社会性を育む過程において直接体験を重ねることが重要
体験活動の定義
体験活動の効果（「独立行政法人国立青少年教育振興機構」の「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書H22年10月より）
5. 学校教育における集団宿泊体験活動の現状
高知市の小学校の取り組み
高知市立横浜中学校（幡多地域への修学旅行）の取り組み
高知市立朝倉中学校（里山づくり）の取り組み

1月10日（土）14：30～16：00

【講義】対象者理解

～「学校現場や地域活動」から学ぶ～ 濱田 道雄

子どもたちの成長の過程に自然体験活動が必要な理由を「子育て」の観点から捉えたこと。そして、対象者（特別な配慮を要する対象者も含む）を指導していく指導者としての配慮や対応していく方法を位置付けました。

講義内容の要点

子どもの世界とは、

1. 子どもたちに成長の過程と体験活動
 - (1) 自立心を育てる子育て
 - ①子どもは人のマネをして成長する
 - ②親子間の信頼関係が自立心を育成する
 - (2) 自己肯定感を高める取り組みを
 - ①仲間と関わる直接体験（自然・生活）活動を用意し感動を受け取らせる
 - ②親も指導者もできるだけ自分を語る
 - ③子どもたちの認識を揺さぶる

- ④間違いや失敗を大切に
- ⑤ある程度不自由さを
- (3) 対象者への配慮
- (4) 子どもの特徴（一般的理解と個別的な理解）
 - ①配慮のいる子が活動の中でとる行動
 - ②不注意の子・多動性・ストレスの高い子の特徴と最近のストレス
 - ③知的障害、視覚・聴覚障害、肢体不自由、言語障害、学習障害、注意欠陥・多動性障害、広汎性発達障害（自閉症障害、アスペルガー障害等）の特徴及びADHDの二次障害について

1月10日（土）16：00～17：30

【講義】対象者理解

～「森のようちえん」から学ぶ～ 岡林 道生

現代の子どもたちは、心も体も十分に使って遊ぶ経験が乏しい。その影響は様々な面に見られるようになってきている。心も体も開放してのびやかに遊ぶ、それも友だちと一緒にという経験が必要である。子どもたちにとって、最もふさわしい場所、それが森や川、海などの自然である。

幼児期の一般的理解とは、3～4歳、4～5歳、5～6歳それぞれの発達段階における、生活習慣の確立、身体機能の発達、言葉や社会性についての理解をすることである。

本講義では、同園内「すくすくの森」での森のようちえん活動の経験を通して、幼少期の発達段階の子どもに対して、指導者として配慮すべき点、援助の方法を説くこととしました。

講義内容の要点

1. 指導する側の共通理解と連携

(1) 指導する側の心得

- ①安全の共通理解
- ②その日のねらいを共通理解
- ③子ども一人一人のパーソナリティの共通理解

その行動として大切なこと

- ・見守る
- ・受容と共感
- ・安心して遊ぶ環境
- ・子どもへの話し

(2) 発達段階の変化

① 3～4歳児

- ・虫たちと遊ぶ
- ・よく身体が動くようになった
(体験例)「木の落とし物」・・・クラフトづくり

② 4～5歳児

- ・基本的生活習慣の確立
- ・身体機能の発達
- ・知的発達
- ・内面が育つ
(体験例)「ぼくの木わたしの木」・・・感じたままを表現

竹と出会う、魔法の糸電話

③ 5～6歳児

- ・ 基本的な生活習慣の確立
- ・ 運動機能の発達
- ・ 社会性の発達
- (体験例)「見て、感じて」・・・感じたままを表現
木と話そう、木のフィールドビンゴ
- (反応) 木と対話と瞑想、見える色に集中がみられた

2. 特別な配慮を要する対象者の特徴や個性とその対応方法

(1) 発達障害の特性とは

育て方等環境ではなく、認知機能の偏りをきたす脳機能障害があると考えられる。

- ・ 視線が合いにくい・不意の接触を嫌がる・会話が苦手・興味に偏り・こだわる・過敏
- ・ 同年代とのあそびが苦手・落ち着きがない、動かない・手先が不器用、運動が苦手
- ・ 記憶がよい・几帳面、ルールは守る・視覚的理解がよい。等

① 広汎性発達障害

② ADHD (注意欠如多動性障害)

③ LD (学習障害)

(2) 発達障害幼児の援助留意点

- ・ 叱らない・・・なぜ叱られているか理解できない、ということを受け止める。
- ・ 否定しない・・・してほしいことを伝える。
- ・ 止めない・・・つきあう。
- ・ 頑張りと言わない・・・「頑張る」の意味が理解できない、ということを受け止める。
- ・ 受容・・・ありのままを肯定的に受け止める。
- ・ 傾聴・・・子どもの言葉を真摯に受け止める。表情や目の動きにも心を配る。
- ・ 共感・・・そうね、そうなんだ。
自己肯定感を育み、二次障害につながらないためにも
以上の留意点はしっかり心に留めておいてほしい。

1月10日(土) 18:30～20:00

【講義・演習】自然体験活動の指導(Ⅰ)

～「わかちあうこと・寄り添うこと」ワークショップ～ 兼松 憲一

本講義の目的は、自然体験活動の指導方法や指導技術を理解することを主として、その方法や技術をつたえる側としての留意点にポイントを置き講義をすすめました。

講義内容の要点

(ねらい) ねらいをどこへ置くかで企画・指導が決まる

1. 自然体験活動を進めるにあたって
手順サイクルを確認し、プログラムコンセプトの必要性を説く
2. ねらいをどこに置くか
対象物(人間なのか自然なのか)をきちんと押さえておく大切さを説く
提供側として、参加者をどうしたいのか、自然をどうしたいのか押さえどころを説く
3. 体験側の変化と指導者の4つの役割
自然解説人と自然案内人としての行動から、4つの役割を説く

4. コミュニケーション

伝えることの行動構造として、言語行動と非言語行動があること

5. 指導する側の心構え・・・「分かち合うこと・寄り添うこと」とは（ワークショップ）
「自分の行動、相手の行動から何を感じたか・・・わかちあうとは、どういうことでしょう」を1枚の白紙を使って「5つに破った用紙をもとのように組み立てる」WSを実施。その過程で、
相手の行動を通して自分を観る、相手を観る、想う、見守ることの確認をする体験を実施した。

1月11日（日）8：30～10：00

【講義・演習】自然体験活動の指導（Ⅱ）
～自然体験の導き方～ 菊間 彰

本講義の目的は、自然体験活動の指導方法や指導技術を理解することを主として、その方法や技術をつたえる側としての留意点にポイントを置き講義をすすめました。

講義内容の要点

自然への導きをするにあたり、その参加者と指導者の交流を第一とすることである。
ここでは、アイスブレイクの実践のもとに、さまざまなアクティビティの効果を学んだ。

演習内容：

1. 実施アクティビティ
 - ・声まわし「えっ？」
 - ・パパパパン
 - ・座標系ゲーム「私はココから来ました」
2. 参加者による各種アクティビティ
参加者がお互いにアイスブレイクのネタを披露し合った。

1月11日（日）19：30～21：00

【講義】自然体験活動の技術（Ⅰ）
～夜はともだち（ネイチャーゲーム体験）～ 兼松 憲一

本講義の目的は、自然体験活動の専門的な技術を体験する・理解することを主として、ネイチャーゲームを例として、その方法や技術をつたえる側としての留意点にポイントを置き講義をすすめました。

講義内容の要点

（ねらい）自然を深く考え感じる。

1. ネイチャーゲーム
 - （1）自然案内人として
レイチェルカーソン「センスオブワンダー」から、自然にむきあう大切さを知る。
 - （2）ネイチャーゲームの紹介（アクティビティ2つから）
 - ・「ノーズ」・・・ある対象物を段階的に理解していく、終わりに対象物を認める。
 - ・「おちばがお」・・・落ち葉に心を寄せる。

- (3) ネイチャーゲームの特徴
 - ・ 3つのキーワード（自然への気づき、フローラーニング、わかちあい）
 - (4) ネイチャーゲームリーダー（自然案内人）としての姿勢
 - ・ 5つの姿勢と体験側の変化
2. 自然体験活動における共通課題の発見（1例）紹介
- ・ 前日、参加者に対して、各々「今、自分が困っていること1つ」を記入して戴いた18のデータから、個人の悩みが全体の共通的な課題としてでもあったことを見いだす方法を紹介した。

1月11日（日）10：00～11：30

【講義・演習】自然体験活動の技術（Ⅱ）

～インタープリテーション実習と概論～菊間 彰

本講義の目的は、自然体験活動の指導方法や指導技術を理解することを主として、前日の自然体験活動の技術（Ⅰ）に引き続き、その方法や技術をつたえる側としての留意点にポイントを置き講義をすすめました。

講義・演習内容の要点

- ・ 班ごとにわかれ、5分間アクティビティを企画、実施
- ・ 大事にする事は「五感」「体験的」「メッセージ」
- ・ 実施後に相互フィードバックのち講師よりコメント。

講義

- (1) インタープリター、インタープリテーションとは？
自然と人を「つなぐ」技術で、「伝える技術」の一つ
自然解説と訳されるが、自然だけでない。
できるだけ話さない。
知識だけでなく、五感を使って体験し「感じる」ことを重視
- (2) インタープリテーションの必要性
自然と自然案内の技術で楽しい自然体験を提供
- (3) インタープリテーションの概要
体験的な手法（体験学習法を用いる）
表面的な物事でなく、その裏にある「メッセージや物語」を伝える。

演習内容：

- ・ 講師によるアクティビティを体験
「そっくりさんを探せ」
- ・ 班ごとにわかれ、5分間アクティビティを企画、実施
- ・ 大事にする事は「五感」「体験的」「メッセージ」

最後に、インタープリターのこころがまえ

- ・ 知識や情報より、感動を！
- ・ コミュニケーション能力を！

1月11日（日）11：30～12：00、13：00～18：00、
19：00～19：30

【講義・演習】自然体験活動の企画・運営
～プログラムデザイン実習～菊間 彰

本講義の目的は、自然体験活動の指導方法や指導技術を理解することを主として、その方法や技術をつたえる側としての留意点にポイントを置き講義をすすめました。

講義内容の要点

- ・アクティビティとプログラム、ストーリー
- ・コンセプトの重要性
- ・プログラムデザインとは、コンセプトという「串」にもとづき「ストーリー」を意識しながら「アクティビティ」を適切な順番に紡いで行く作業である。

演習内容：

(1) 班ごとにわかれ、1日プログラムを企画

(2) 各班ごとにテーマ設定

「自然体験」「観光プログラム」「婚活」「今までやった事のない企画」

(3) グループ討議

- ・企画発表のち参加者よりフィードバック
- ・のち講師からのコメント

(4) 全体を通じてきづいたこと

- ・高知の参加者は意識が高く積極的で非常にキャラの濃い人達が多かった。
- ・イントラ講座という事で基本的に皆実践者なので、実施アクティビティ、プログラムのクオリティが高かった。

1月12日（月・祝）8：30～10：00

【講義・演習】自然体験活動の特質
～吉良川町並みウォッチング～吉良川町並み保存会

明治中期から昭和にかけて土佐備長炭の製炭とそれを運ぶ廻船で栄えたまちで、土佐の伝統的意匠を持つ商家が建ち並んでいます。今日は寒さも和らいで、穏やかな冬の日差しの中、皆さまを案内することができ本当によかったです。もっと時間があればよかったのですが吉良川の自然とともに生きてきた人たちの暮らしを少しでも観ていただき本当にありがとうございました。

講義内容の要点

1. 県内唯一の国の重要伝統的建造物群保存地区である吉良川町の町並みを紹介。
 - ・建物外壁について説明。
 - ・土佐漆喰でつくった白壁の製造過程を紹介
 - ・台風の通り道といわれる吉良川地区の屋根を紹介
 - ・強風、雨風にも耐えられる建築方法（田の字の形の間仕切り、店先の開閉扉）を紹介
 - ・強風から回避する「石ころ壁」の防壁を紹介

2. 恩田神社境内にて吉良川地形の紹介（境内裏山の巨石を紹介）

おわりに、吉良川町並み保存会の青木さんより吉良川の歴史とその思いを語っていただきました。

古来より木材や薪などの森林資源を活用して、京阪神への流通により文化の交流をしてきたことや台風常襲地ゆえの暮らしの工夫、そして、次代へ引き継ぐ大切さを教えられました。

東西に川で挟まれ南に直近の海と、厳しい自然に耐え生きてきた暮らしに、人々の知恵と神への畏敬の念が伝わってくる町並み拝見でした。

1月12日（月・祝）10:00～11:30

【講義】自然体験活動の安全管理（Ⅱ）

「野外活動における安全管理について」青木 浩

自然体験活動における事故は、いつどこで起きるかわからない。指導者として安全安心に行事を進めるには、それなりの安全管理手法とリスク管理が必要不可欠なものである。

本講義では、安全管理の基礎、危険への対応、安全教育、マネジメントを解説。

講義内容の要点

前半は、自然体験活動の安全管理（Ⅱ）「野外活動における安全管理について」

様々な環境での安全への配慮を、高知県西南地域の環境を例にとり、リーダーとして特に配慮すべきことをポイントとして、安全管理の基本的考え方、事故発生危険の想定分析、指導者としての心構えを解説。

後半は、自然体験活動の安全管理（Ⅰ）「安全管理とリスクマネジメント」を解説。

「野外活動における安全管理について」要旨

- ・安全管理の基本的な4つの考え方・原則（安全最優先、想定、規範道徳、自主の原則）
- ・危険の想定、分析をするには3つの存在を考慮しておくこと。（顕在危険、潜在危険、遠在危険）

- ・事例を考えてみる。（河原でのキャンプ、海岸縁での活動、急激な気候変化を例として）

- ・事故は外的要因と人的要因が重なって発生する。（安全管理の6要素）

- ・指導者として、注意義務あり（結果予見と結果回避）。

- ・「どんなに対策を講じても事故は起こる」という心構えは必要。

指導者として、事故対応の心構え5つ

沈着冷静。速やかに通報、連絡。記録。事実をありのままに。ふり返り。

以上を解説、実施した。

1月12日(月・祝) 11:30~12:00、13:00~14:00

【講義】自然体験活動の安全管理(Ⅱ)

「安全管理とリスクマネジメント」西本 五十六

講義内容の要点

後半は、自然体験活動の安全管理(Ⅰ)「安全管理とリスクマネジメント」を解説。

前半は安全に対する基礎から全般を学習したが、後半はフィールド別、アクティビティ別に具体的に安全管理をどうしているか四万十楽舎の事例を取って解説していきました。

「安全管理とリスクマネジメント」要旨

- ・フィールド別に海、川、山、森の危険は、どんな危険があるかクセを交えて紹介
- ・アクティビティ別に海辺、川辺、磯部、キャンプ、野外料理、ハイキング等の紹介
- ・水遊びでは、シュノーケリング、シーカヤック、ヨット、カヌー等でのライフジャケット等の
装備の必要性。
- ・キャンプでは、サイトの選定、テント設営、キャンプファイヤー等々のきめ細かな装備、
計画
- ・危険な動植物、生き物等の体験話から、指導する上での再確認を促す。
- ・事故がおこったときの基本的対応

(質疑等)

- ・カヌー体験では、川の状態により指導・案内が変わると思うが、その場合どうしているか。
- (年間通して、地形等はわかっているつもりでも川の状態、参加者の体調等で変更している。)